

良いも悪いも自分しだい。 加算方式で、夢は叶う。

相手を思う1分の1精神

「ラーメン修行は、実は人間修行」と言い切るのは、うまい味噌ラーメンで人気の高い、満天家の旗野政典社長。宇都宮市内だけでも3000店もあるラーメン専門店の激戦地で、多くのファンをひきつけている。その秘訣は、「栃木県で一番うまい味噌ラーメンを作りたい」という熱い想いはもちろんだが、その根底にある「お客さま、家族、スタッフのために」という、自分ではなく、出会った相手の幸せを一番に考える姿勢にある。

夢は叶う、というスローガンのもと、1分の1の精神で、お客さま一人ひとりに、感謝の気持ちを含めて「ありがとうございます」を言い続けている。それこそが、「自分自身の幸せにながっている」と、ためらいもなく語る姿に偽りは無い。なぜなら、そこに行き着くまでに、十分悩み、苦しみ、もがいた日々があったからこそ。

おごりを克服して

小さい頃から、料理を食べるのも作るのも好



きたったそうだ。小学校の低学年の頃には、自分でインスタントラーメンを上手に作っていたとか。好きこそもの上手なれと思いきや、実は、やむにやまれぬ事情があったのだ。

旗野という珍しい苗字のルーツは東北。曾祖父の代で来宇し、材木商で成功。婿だった3代目の父親が店をつぶしてしまい、離婚。それから、母親と姉と弟の4人暮らし。生計は、母親が焼肉居酒屋でたてていた。

小中学校時代は「絵に描いたような、ガキ大将でしたね」とうそぶきつつ、野球に熱中。進学校に入学しても野球部に所属するが、勉強優先の弱小チーム。そこで「甲子園を目指そう！」と奇想天外な発言をする。しかし、ひた向きに努力する姿が回りを巻き込み、ついには県大会ベスト4を勝ち取る。本気で夢を語り、努力する生き様は、すでにこの頃から始まっていた。

大学卒業後、営業マンになるが、もともと接客と料理に興味があったため、3年で退職し、飲食業界に踏み出した。まずは、母親の店のバイクの出前持ちから。2年後に店を拡大し共同経営者となる。その1年後、母親の再婚で独立。10坪ほどのもつ鍋屋は、大繁盛。ところがブームが去り、借金が増えるばかり。7年間で3000万円にもなった。自己破産寸前までになった。

「おごりがあったんですね」と、振り返る。赤ちゃんをかかえ、夜逃げまで考えた時、今は亡き奥様が「もう1回がんばろうよ！」と言。それから、本人曰く「振り返りの時間」がはじまる。5年間は1日も休まず働き、反省を込め、タバコも酒も断つ。「うまくいかなかったから、今までの逆をやるうと思つた」と、かなりス

トップに自らを追い込む。

やがて、夜だけの焼肉屋からランチでラーメンとチャーハンをやるようになり、ついにはラーメンに一本化。それが35歳の時。そして、完熟無添加味噌で勝負をかけた。満天家を平成13年にオープン。そこに込めた想いは、「できることを本気でやろう。100点目指して、0点から加算していく」ということ。開店当初は、1日平均17食ということもあったが、おごりを捨て、他人の喜びだけを願い邁進し続けた結果、今まさに、地域一番店になりつつある。

人ありき

人ありきという考えで、人材育成にひとかたならぬ尽力をする旗野氏。「全ては自分しだい。良いも悪いも自分。失敗もOK。減点するのではなく、失敗の数だけ、悔しがり反省し、目指したことをやり抜く。やっている事が向いているか、向いていないかは、一生懸命やった結果」と。入育てば、1店舗増やす。そうして、満天家の直営店は、今6店舗で年商7億になる。

100点満点で、今は何点？ の問いに、「30点家かな」と笑いながら答える。もうそろそろ、好きなゴルフを楽しむことを、自分に許してもいいのでは。

【取材日：平成26年8月11日】



Profile

はたの まさのり
旗野 政典

昭和38年4月2日生まれ51歳。生まれも育ちも宇都宮市。栃木県立宇都宮東高等学校、日本大学経済学部卒。3年間のサラリーマン生活を経て飲食業界に入る。母親の経営する飲食店で、出前持ちからスタート。28歳で独立。紆余曲折を経て、平成13年に「満天家」をスタート。直営店は現在6店舗。すべての食材を製造するセントラルキッチンも立ち上げ、まだまだ進化し続けている。さらに9月には、満天家のノウハウと食材を提供する「麺友会」を立ち上げ、県外で展開予定。